

SEO内部対策マニュアル



対象ドメイン

<https://iyashihonpo-group.com/>

当マニュアルの内容は作成時のものになります。
御社のサイト更新の状況により内容と現状に誤差が発生する場合がございますので、
その点においてはご了承くださいますようお願い致します。

この資料は、株式会社doubleが著作権その他の権利を有するものです。
この中には弊社に単独所有権がある企業秘密および極秘情報が含まれています。
この資料は、弊社の明確な同意を得ずに、その全部または一部を使用、複製、コピー、公表、伝達することはできません。

【内部修正を行うにあたっての注意点】

内部修正を行うにあたっては、データの破損や情報の上書きのリスクを避けるため、必ずバックアップファイルを作成し保管してください。

当マニュアルは、ウェブ上から対象ドメインを解析し判断しているため、環境によっては、一部変更不可箇所がある可能性があります。

【当指示書のご利用方法】

当マニュアルをご活用頂く際は、別途共有させて頂く「内部対策チェックシート.xlsx」と併せてご覧下さい。
「内部対策チェックシート.xlsx」では、内部調整すべき項目を指摘させて頂いております。

内部修正を行う際は、
まずは当マニュアルの「一覧フェーズ」でどのような項目があるのかをご確認頂き、
「詳細」欄の「表示」リンクから該当項目の「設定ルール」に沿って、内部修正のご対応をお願い致します。
なお、紙媒体でご覧のお客様は、「一覧フェーズ」の"項目"と同じ表題の詳細ページをご参照下さい。

目次

一覧フェーズ				
ドメイン	過去のSEO対策	ユーザビリティ向上	対策重要項目（TDK）	ソースの調整

詳細フェーズ				
ドメイン	過去のSEO	対策重要項目（TDK）	ユーザビリティ	ソースの調整
robots.txt	テキスト飛ばし、非表示	見出しタグの記述	ページの読み込み速度	noindex
DOCTYPE宣言	発リンク	<title>	コピーコンテンツ	表示URLの統一
HTMLバージョン	キーワードの羅列	<meta keywords>	作成途中ページ	リンク切れ
文字コード		<meta description>	キーワード比率	コメントアウト
サーチコンソールの登録	<table>を使用したサイト	<h1>	404エラーページ	<script>
モバイルフレンドリー				style
sitemap.xml				alt
SSL化				外部リンク
				内部リンク
				<link rel="canonical">
				<link rel="alternate">

一覧フェーズ

内部対策の修正項目を一目でご覧頂けます。
「詳細」欄のリンクから、詳しい内容をご確認下さい。

基礎設定

WEBサイト構築における基礎設定

項目	詳細	優先度
nomdex、robots.txtの設定	表示	高
表示URLの「www」有り無し統一について	表示	高
DOCTYPE宣言の設定	表示	高
HTMLバージョン別の記述方法	表示	高
文字コードについて	表示	高
見出しタグの記述について	表示	高

内容が確定したら修正します
(このページ)は各見出しのページ

詳細フェーズ

内部対策の修正内容を詳細にまとめてあります。
ご覧いただき、指示に沿って修正対応をお願い致します。

robots.txtの設定

検索エンジンのロボットに向けた、重要なページをうまく認識させるための中継役です。

ページ数が多い大規模なサイトには設置を推奨いたします。

設定ルール

- 1 robots.txtはサイトのボリュームが多い、階層が深い場合に使用する。
- 2 robots.txtにサイトマップのパスを記述することで、クロールの促進をする。
- 3 robots.txt内で順位向上に関わるページ（対策ページ等）がDisallow設定になっている場合、削除する。

補足情報

■アドレスバーにURLを入力すれば、robots.txtの内容が外部から見ることができます。（例：<http://example.com/robots.txt>）
見られたくない情報があれば、アクセス制限をかけることを推奨いたします。

■数千以下のURL数（数千ページ以下）であれば、基本的にrobots.txtでクロール最適化を行う必要性はありません。

DOCTYPE宣言の設定

DOCTYPE宣言は、HTMLの記述バージョンを指定するための設定です。

適切に設定されていない場合、CSSなどの読み込みが正しく行われず、レイアウトの崩れにつながるリスクがあります。

設定ルール

- 1 ページに1箇所のみ設定。
- 2 HTMLソースの最上部に設定。
- 3 サイト内のDOCTYPE宣言は全てのページで統一する。
- 4 記述形式は「HTML4.01」「XHTML1.0」「HTML5」で異なる。 ※html Validationの判定基準になります。

補足情報

▼ HTML4.01のDOCTYPE宣言

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN" "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">
```

▼ XHTML1.0のDOCTYPE宣言

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Transitional//EN" "http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-transitional.dtd">
```

▼ HTML5のDOCTYPE宣言

```
<!DOCTYPE html>
```


HTMLバージョン別の記述方法

HTMLには「XHTML1.0」「HTML4.01」「HTML5」の3つのバージョンがあり、それぞれタグの記述方法が異なります。
記述を間違えているとエラーが起こり、クローラーに正しくページを読み取ってもらえないリスクがございます。

設定ルール

- 1 HTML4.01の場合、終了タグのないタグの末尾に「/」（スペーススラッシュ）を記載しない。
- 2 XHTML1.0の場合、終了タグのないタグの末尾に「/」（スペーススラッシュ）を記載する。
- 3 HTML5に関しては、どちらでも問題ありません。

補足情報

■HTML4.01の場合 : ``

■XHTML1.0の場合 : ``

▼主な終了タグのないタグ

br, img, hr, meta, input, embed, area, base, col, keygen, link, param, source

文字コードについて

文字コードは、ブラウザに対してファイルをどのような文字コードで保存したのかを明示するための設定です。

正しく設定されていない場合、ページ表示上で文字化けが生じるリスクがございます。

設定ルール

- 1 `<head></head>`タグ内に記述し、1 ページに1箇所のみ設定。
- 2 `<head></head>`タグ内最上部への設定を推奨。
- 3 使用言語にあわせて設定。
- 4 HTMLファイルのエンコードにあわせて設定。

補足情報

■utf-8 : `<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=utf-8" />`

■Shift_JIS : `<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=shift_jis" />`

■EUC-JP : `<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=euc-jp" />` など。

※HTML5の場合、上の記述方法で問題ありませんが、`<meta charset="utf-8" />`と省略も出来ます。

Googleサーチコンソールへの登録

Google Search Console は、Google 検索結果でのサイトのパフォーマンスを監視、管理できる Google の無料サービスです。
SEOに限らず、サイト運営において有用性の高いツールのため、登録を推奨致します。

設定ルール

- 1 別途添付する「登録ファイル」をドメイン直下に設置。
- 2 ※すでにサーチコンソールに登録してある場合は、下記の対応をしてください。
- 3 手順①：サーチコンソールへログイン。対策ドメインのダッシュボード画面へ進む。
- 4 手順②：「設定」→「ユーザーと権限」→「ユーザーを追加」の順にクリック。
- 5 手順③：下記記載の弊社アドレスを追加し、権限を「フル」にする。

補足情報

▼弊社アドレス

sem.double@gmail.com

※下記「登録ファイル」は別途共有させていただきます。

▼登録ファイル

google0b64449137d71ff2.html

モバイルフレンドリー

スマホ対応をしているかどうかは、Googleの検索エンジンにおける、重要な評価指標となっております。
そのため、スマホでのサイト表示最適化（モバイルフレンドリー）が推奨されます。

設定ルール

- 1 モバイルフレンドリーテストページより、問題点の確認と調整を行う。
- 2 モバイルフレンドリーにするための主な調整①：フォントサイズを大きくする。
- 3 モバイルフレンドリーにするための主な調整②：タップ要素の距離を空ける。
- 4 モバイルフレンドリーにするための主な調整③：ビューポートを適切に設定。
- 5 モバイルフレンドリーにするための主な調整④：Flashに依存していないページであること。

補足情報

▼モバイルフレンドリーテストページ

<https://www.google.com/webmasters/tools/mobile-friendly/>

※モバイルフレンドリー化をするためには、スマホ表示用のデザインや画像の用意、レイアウト調整などが必要になるケースがございます。
そのため、工数が多くかかることが見込まれますので、ご注意下さい。

sitemap.xmlの設定

sitemap.xmlを設置することで、サイト内にあるページを検索エンジンに知らせる役割があります。

新規ページなどを素早く検索エンジンに認識させることが可能です。

設定ルール

- 1 sitemap.xmlを作成し、設置する。
- 2 <loc>の設定：サイト内ページのURLを記述。
- 3 <lastmod>の設定：各ページの最終更新日を設定。
- 4 <changefreq>の設定：各ページの更新頻度にあわせ「daily,weekly,monthly」などを記述。
- 5 <lastmod> <changefreq>の設定は正確な情報を設定する。※更新が難しい場合は設置不要

補足情報

▼sitemap.xmlの記述例

```
<url>
<loc>http://example.com</loc>
<lastmod>2019-02-21</lastmod>
<changefreq>weekly</changefreq>
</url>
```

▼<loc>の設定における注意点

※「**www**」「**/index**」の有無で別ページと認識されるため、ご注意下さい。

・同じページを表示しても、別ページと判断されるURL例

http://example.com/

http://example.com/index.html

http://www.example.com/

http://www.example.com/index.html

SSL化について

Webサイトのセキュリティ向上・Webサイト表示の高速化のために
Webサイト全体をHTTPS化（通信の暗号化）を推奨いたします。

設定ルール

- 1 サイトを一部のみ、もしくはSSL化をしていない場合は、常時SSL化の対応を推奨。
- 2 既にSSL化している場合は、サイト内の内部リンクをすべて「https://」に設定する。
- 3 SSL化後、http://からhttps://へリダイレクト設定をしていない場合は、301リダイレクトを設定する。

補足情報

※常時SSL化は各登録サーバーによって金額や手順が異なります。
対応は各登録サーバーにて常時SSL化の設定をお願いいたします。

テキスト飛ばし、非表示について

過去対策キーワードを無理やり盛り込むため、CSSによるテキスト飛ばしや非表示の設定がされているサイトがありました。
現在はスパム行為として判断され、最悪ペナルティとなるリスクがあります。

設定ルール

- 1 文字色と背景色を同一の色に設定し、視覚的に見えなくさせる行為の禁止。
- 2 テキストの上に画像を被せるように設置、視覚的に見えなくさせる行為の禁止。
- 3 ユーザーの利便性につながるscript や jQuery を用いたアコーディオンやタブ切り替えは問題ない。

補足情報

▼テキスト飛ばし、非表示になる設定例

- text-indent:-9999px;
- overflow:hidden;

※その他、視覚的にテキストが見えなくなる設定は控えてください。

キーワードの羅列・詰め込みについて

過去、キーワードの大量羅列・詰め込みによってSEO対策を行うサイトがありましたが、現在は検索エンジンからスパム判定を受けるリスクがあります。キーワードの大量羅列などがありましたら、削除をお願い致します。

設定ルール

- 1 上位表示を目的としたキーワードの大量羅列をしない。
- 2 テキストが不自然になったり、読みづらくなるほど、同じ単語を繰り返す文章にしない。
- 3 ECサイトのカテゴリー一覧など、サイト上必要で自然な範囲であれば問題ない。

補足情報

・該当例

選ばれる理由01 SEO対策

[illegible]

の設定

過去、Googleの検索エンジンに対して、文言の強調（重要であると伝達）することが出来ましたが、SEOにおいて現在では強調（重要であると伝達）の意味はないものとされています。

設定ルール

- 1 文字を太くしたい場合には、なるべくCSSを使用する。
- 2 <h>タグ内の使用は、過剰なSEO対策と判定されるリスクがあるため避けてください。

補足情報

※を使わずに、太字装飾をしたい場合は下記のような設定をしてください。

▼HTML

```
<span class="strong">テキスト</span>
```

▼CSS

```
.strong{font-weight:bold;}
```

大量の発リンクが存在するページ

過去、リンク売買や大量の発リンクのみのページで作られたサイトがありましたが、
現在Googleは推奨しておらず、マイナス評価を受けるリスクがあります。単純なリンク集のようなページがあれば削除を推奨致します。

設定ルール

- 1 大量の発リンクがあるリンク集のページは、マイナス評価を受けるリスクがあるので削除を推奨します。

補足情報

<table>を使用したサイト作成について

サイト全体が<table><tr><td>を使用したテーブル構造の場合、クローラーの巡回に影響がでるリスクがあります。
正しくサイトを読み込んで貰うためにも、サイト全体を<table>で構築しないようにしてください。

設定ルール

- 1 可能であればHTML、CSSによる<div>構造のページに変更する。

補足情報

※修正をする際は、工数が膨大になる可能性があるため、サイトリニューアルをする際などにご検討ください。

見出しタグの記述について

見出しタグ（<h1>～<h6>）はページ内の見出しに使用するタグです。

SEO対策ではW3Cの基準に沿って使用することをおすすめ致します。

設定ルール

- 1 <h1>はページ内で1箇所に設置。
- 2 <h2>以降は何度使用しても問題ない。
- 3 ソース内に記載する順番が正しくないと効果的ではない。
- 4 <h>タグに画像を使用する場合は、altタグを必ず設置する。
- 5 各ページ独自のオリジナルテキストで作成し、重複しないようにする。

補足情報

▼見出しタグの正しい記述例

<h1> ⇒ <h2> ⇒ <h3> ⇒ <h4> ⇒ <h3> ⇒ <h4>

▼見出しタグの誤った記述例

<h1> ⇒ <h3> ⇒ <h2> ⇒ <h4>

※見出しタグは数字の順番を飛び越えて使ってはいけません、隣り合う数字であれば次に使うことができます。

1つのセクションが終わったタイミングで、ジャンプすることは可能です。（右図赤字）

▼例

```
<h1>
<h2>
<h3>
<h4>
<h3>
<h4>
<h2>
```

<title>の設定

検索エンジンがページの情報を理解するために、非常に重要視しているタグです。SEO対策においても重要度が高いものです。

titleタグに設定した文言は検索結果上に表示され、クリック率にも多大な影響を与えます。

設定ルール

- 1 <head></head>タグ内に記述し、1 ページに1箇所のみ設定。
- 2 32文字以内のオリジナルテキストで作成。
- 3 不自然にならないように対策キーワードを出来る限り文頭に盛り込む。
- 4 箇条書きや「・」や「、」などの記号を使った単語の羅列は控える。
- 5 各ページ独自のオリジナルテキストで作成し、重複しないようにする。

補足情報

※別途共有する内部対策チェックシートに、<title>の修正例をご用意しております。

▼<title>設定を32文字以内にする理由

文字数が一定数を超える場合、検索結果において「・・・」と省略されてしまいます。

文字の表示数は変わることがありますが、現状では32文字程度であれば、省略されずに表示が見込めます。

<h1>の設定

検索エンジンに、ページの内容や構成を伝える要素で、見出しタグの中では最上位のものになります。

対策キーワードを盛り込むことで、その重要度・関連性を検索エンジンに伝達することが出来ます。

設定ルール

- 1 <body></body>タグ内に記述し、1 ページに1箇所のみ設定。
- 2 不自然にならないように、対策キーワードを出来る限り文頭に盛り込む。
- 3 <h1>タグ内に画像を使用する場合は、altタグに対策キーワードを使用した文章を設置する。
- 4 各ページ独自のオリジナルテキストで作成し、重複しないようにする。
- 5 <h1>は他の<h>タグよりも上部に設置する。（hタグの中で<h1>タグを最上部に置く）

補足情報

※別途共有する内部対策チェックシートに、<h1>の修正例をご用意しております。

Googleは「h1タグを複数使用してもよい」と公言していますが、運用法が確立されていないため、1ページに1つの設置を推奨しております。
また、<h1>タグは、他の<h>タグよりもSEO的な影響度は大きいものと考えています。

<meta keywords>の設定

現状、Googleにおいて重要視されていない設定のため、SEO的な効果は望めない要素です。
今後SEO効果が認められる可能性は低いですが、念のため設定しておくことをおすすめします。

設定ルール

- 1 SEO対策するキーワードを設定してください。
- 2 <head></head>タグ内に記述し、1 ページに1箇所のみ設定。
- 3 設定キーワード数は1~3程度を推奨します。

補足情報

※別途共有する内部対策チェックシートに、<meta keywords>の修正例をご用意しております。

▼<meta keywords>の設定例

※対策キーワードが「seo」「seo 対策」「seo 対策 double」の場合

```
<meta name="keywords" content="seo,対策,double" />
```

<meta description>の設定

<meta description>は、検索結果上に表示されるサイトのページ内容を知らせる役割があります。
適切に設定することで、サイトへのクリック率を高め、かつクリック後の離脱率改善にも影響します。

設定ルール

- 1 <head></head>タグ内に記述し、1 ページに1箇所のみ設定。
- 2 80～120文字程度のオリジナルテキストを設定する。
- 3 不自然にならないように、対策キーワードを出来る限り文頭に盛り込む。
- 4 箇条書きや「・」や「、」などの記号を使った単語の羅列はなるべく控える。
- 5 各ページ独自のオリジナルテキストを作成し、重複しないようにする。

補足情報

※別途共有する内部対策チェックシートに、<meta description>の修正例をご用意しております。

▼<meta description>が存在しない、あるいは未設定の場合

検索エンジンが自動的にページを読み込み、ページ内情報を抜粋して表示がされます。

ページの読み込み速度について

WEBサイトの順位を上げるためには、サイトスピードの高速化が重要だといわれています。
適切に設定することで、SEO評価の向上になります。

設定ルール

- 1 Google Page Speed Insight で計測
- 2 方法①：画像を軽量化する。
- 3 方法②：PCページで使用する画像とスマホページ画像で使用する画像を分ける。
- 4 方法③：CSS・Scriptを圧縮する。

補足情報

▼Google Page Speed Insight

<https://developers.google.com/speed/pagespeed/insights/>

404エラーページについて

404エラーページの有無は、直接的なSEO評価には影響しません。

しかし、ページをご用意頂くことでユーザーの離脱を防止することが出来るため、作成を推奨致します。

設定ルール

- 1 リンク切れとなった際に、404エラーページが表示されるように設定。
- 2 404エラーページ内に必ずサイトへ戻るリンクを設置する。
- 3 404エラーページがなくても元のサイトへリダイレクトされる場合、設置する必要はありません。
- 4 404エラーページのデザインは、他ページと同様のデザインに統一を推奨します。

補足情報

▼404エラーページの表示例



作成途中かつ公開状態のページについて

コンテンツがほぼ存在しない、あるいはまったくないページは、価値のない低品質なページと評価されます。
その評価が、サイト全体の評価も低くするリスクがあります。

設定ルール

- 1 サーチコンソールを使って、極端に流入数が少ない作成途中のページがないかを確認。
- 2 コンテンツがほとんど存在しないページは、早急にページを作りこむ。
- 3 ページをすぐに完成させられない場合は、一時的に削除や非表示にする。

補足情報

▼一時的にページを非表示とする設定

①下記のタグをHTML内の<head>に設置する。

```
<meta name="robots" content="noindex" />
```

②WordPressで作成されたページの場合、ページの公開設定を「下書き」あるいは、「非公開」とする。

キーワード比率の調整

特定キーワードの出現比率が適切だと、検索キーワードと対策ページの関連性が高まり、微弱ながらSEO効果が望めます。
しかし、読み物としての品質が最優先ですので、不自然にならない程度に調整頂くことを推奨致します。

設定ルール

- 1 効果的とされるキーワード比率の目安は、3%~5%です。
- 2 コンテンツの品質が優先ですので、不自然かつ過剰にキーワードを追加するのは避けてください。
- 3 過剰にキーワードを盛り込んだ場合、スパム判定を受けるリスクがあります。
- 4 共起語の使用することで、より効果が高まることが見込まれます。

補足情報

▼キーワード比率の確認ツール

https://kiji-writer.com/word_check/

▼キーワード比率の調整方法

- ①キーワードの追加・削除（パンくずやグローバルナビ、サイドナビにキーワードを盛り込む）
- ②新規テキストコンテンツの追加
- ③画像のテキスト化

コピーコンテンツについて

他ページや外部サイトに、全く同じ、あるいは非常に似通ったテキストがある場合、掲載順位が落ちるリスクがあります。
重複するテキストがある場合、テキストのリライトや画像化などの調整をお願い致します。

設定ルール

- 1 内部・外部サイトでテキストコンテンツの重複を避ける。
- 2 1つのファイルを読み込んで複数ページに表示させることもコピーコンテンツに該当する。
- 3 各ページ下部に共通で設置されている、「お知らせ」「注意書き」などは許容する。
- 4 150-200文字程度のテキストもコピーコンテンツ扱いになる。
- 5 同じコンテンツが別ドメインで管理されている場合、どちらかのページにnoindexをつける。

補足情報

▼テキストの重複がある場合の対処方法

- ・該当テキストをリライトや削除、変更をする。
- ・該当テキストを画像化する。
- ・重複先の外部サイトに対してコンテンツの変更・削除を依頼する。

▼コピーコンテンツの調べ方

- ① Google検索欄に「"〇〇〇"」と入力して検索すると、完全一致での検索ができます。

※〇〇〇部分に調べたいテキストを入力

- ② コピーコンテンツがチェック出来るツールを利用する。

<https://copyrun.net/>

noindexの設定

noindexをはじめとした、URLを検索エンジンにインデックスさせない設定がある場合、検索結果に反映されません。

現在の設定をご確認頂くようお願い致します。

設定ルール

- 1 対策ページの<head>内に<meta name="robots" content="noindex"> の設定がある場合、早急に削除する。
- 2 質の低いページには<head>内に<meta name="robots" content="noindex">を記載する。

補足情報

■重複コンテンツや内容の薄いページにはnoindexの設置を推奨いたします。

質の低いページが検索エンジンにインデックスされると、サイト全体の評価を落とすことにつながるため。

※例外：質が高くないがnoindexしない方がいいページ

HTMLサイトマップページ、404エラーページ、カテゴリページ、タグページ（乱雑な状態になっている場合はnoindexを付けた方がよい）

■WordPressで設定する場合「All in One SEO Pack」というプラグインを利用すると簡単に設定ができます。

表示URL統一について

対策ドメインに「**www**」「**/index.php**」の有り無しページが混在する場合、SEO評価が分散するリスクがあります。
.htaccessを使用しURLの統一設定をお願い致します。

設定ルール

- 1 確認①：**www**有り無しの統一（例 <https://www.final-seo.jp> or https://final-seo.jp_）
- 2 確認②：**index.php**有り無しの統一（例 <https://final-seo.jp/index.php> or https://final-seo.jp_）
- 3 確認③：**https**有り無しの統一（例 <https://final-seo.jp> or http://final-seo.jp_）

補足情報

▼下記のような「**www**」「**/index.html**」の有無がある場合、検索エンジンはそれぞれ別ページと認識します。

<http://example.com/> / <http://example.com/index.html> / <http://www.example.com/> / <http://www.example.com/index.html>

※対策ページのリンクを設定する際は、対策URLと一致するように設定してください。

リンク切れについて

リンク切れが直接影響して順位が落ちることはありませんが、リンク切れページがクロールされず順位が落ちるリスクがあります。
また、ページが表示されないことでユーザーにサイトへの不信感や不便さを感じさせる原因にもなります。

設定ルール

- 1 該当箇所を正しいリンクへ修正、もしくは一時的にリンクを削除する。

補足情報

※リンク切れの判定があった場合は、別途共有する内部対策チェックシート「エラー一覧」に記載しております。

コメントアウトについて

コメントアウトの記述が大量にある場合、ページの表示速度が低下するリスクがあります。

ページの表示速度はSEO評価に影響しますので、不要なコメントアウトは削除をお願い致します。

設定ルール

- 1 不要なコメントアウトは削除する。
- 2 意味のあるコメントアウトは設定したままで問題ございません。

補足情報

■ 削除推奨例

```

500 <img class="size-full wp-image-1859" alt="" data-bbox="84 722 325 755"/>
501 <!-- 記事の最初の画像を表示 -->
502 <img alt="" data-bbox="84 755 325 788"/>
503 <!-- 記事へのリンクを表示 -->
504 <!-- 投稿日を表示 -->
505 <!-- 記事タイトルを表示 -->
506 <!-- 記事本文を表示 -->
507 <!-- 記事本文を表示 -->
508 <!-- 記事本文を表示 -->
509 <!-- 記事本文を表示 -->
510 <!-- 記事本文を表示 -->
511 <!-- 記事本文を表示 -->
512 <!-- 記事本文を表示 -->
513 <!-- 記事本文を表示 -->
514 <!-- 記事本文を表示 -->
515 <!-- 記事本文を表示 -->
516 <!-- 記事本文を表示 -->
517 <!-- 記事本文を表示 -->
518 <!-- 記事本文を表示 -->
519 <!-- 記事本文を表示 -->

```

■ コメントアウトでも問題ない場合

※ソースの構成をわかりやすくするコメントは設置して構いません

```

504 <a href="http://blog.final-seo.jp/seo-related_knowledge/sitespeed/">
505 <!-- 記事の最初の画像を表示 -->
506 <img alt="" data-bbox="484 750 889 783"/>
507 <!-- 記事へのリンクを表示 -->
508 <!-- 投稿日を表示 -->
509 <!-- 記事タイトルを表示 -->
510 <!-- 記事本文を表示 -->
511 <!-- 記事本文を表示 -->
512 <!-- 記事本文を表示 -->
513 <!-- 記事本文を表示 -->
514 <!-- 記事本文を表示 -->
515 <!-- 記事本文を表示 -->
516 <!-- 記事本文を表示 -->
517 <!-- 記事本文を表示 -->
518 <!-- 記事本文を表示 -->
519 <!-- 記事本文を表示 -->

```

<script>の設定

<script>がHTMLに直接記述されていたり、複数の<script>が記述されている場合、表示速度が低下するリスクがあります。

対策として<script>を外部ファイルとしてまとめることで、ページの表示速度が遅くなるのを抑制します。

設定ルール

- 1 利用していない<script>がある場合、動作が遅くなるため削除を推奨。
- 2 HTML内に直接<script>を記述せずに、1つの外部ファイルにまとめる。

補足情報

styleの設定

styleがHTMLに直接記述されている場合、ページの表示速度が低下するリスクがあります。
対策としてcssファイルに記述することで、ページの表示速度が遅くなるのを抑制します。

設定ルール

- 1 利用していないstyle設定がある場合、動作が遅くなるため削除を推奨。
- 2 HTML内にstyleで直接記述せずに、別途CSSファイルに記述する。

補足情報

▼styleの直接記述例

HTML

```
<div style="padding:6px 0 0 10px;position:relative;height:250px;width:695px;">
```

▼修正例

HTML

```
<div class="test-css">
```

CSS

```
.test-css{padding:6px 0 0 10px;position:relative;height:250px;width:695px; }
```

外部リンクの設定

かつては外部リンクが設置されている事で、サイトの持つ評価が一部流れてしまい、SEO評価が下がるリスクがありました。
現在は「適切な参照」であればサイトの評価を向上に繋がるため、必要性を踏まえて設置することを推奨します。

設定ルール

- 1 意味のない不要な外部リンクは、可能な限り削除する。
- 2 参照として有意義かつ適切である外部リンクは、設置することを推奨。
- 3 twitterやfacebookなど、SNS側で定められた外部リンクは許容する。
- 4 都合により削除が難しい場合は、外部リンクに対して「rel="nofollow"」の設定を行う。

補足情報

▼外部リンクへの「rel="nofollow"」の追加例

- ・ 追加前 → `テキスト`
- ・ 追加後 → `テキスト`

※rel="nofollow"・・・クローラーがリンクをたどらないようにする設定。サイトの持つ評価が流れることを防止できます。

内部リンクの設定

内部リンクとは、同ドメイン内で設定されているリンクのことです。

内部リンクを適切に設定することで、SEO評価の分散を避けることができます。

設定ルール

- 1 内部リンクの記載の仕方（絶対パス・相対パス）を統一する・※基本的には絶対パスを推奨
- 2 httpsページへのリンクやhttpsページからの通常ページへのリンクに関しては、絶対パスで設定。

補足情報

▼相対パスと絶対パスの設定例①

- ・絶対パス → `テキスト`
- ・相対パス → `テキスト`

▼相対パスと絶対パスの設定例②

- ・絶対パス → `テキスト`
- ・相対パス → `テキスト`

altの設定

altタグでは画像の代替となるテキストを設定することができます。
適切な設定をすることで、クローラーにページ情報をより理解してもらうことができます。

設定ルール

- 1 タグには必ず設定する。
- 2 画像に文字がある場合、そのテキストをaltタグに設定する。
- 3 画像に大量の文字が記載されている場合、重要な文言に絞って設定する。
- 4 画像に文言が記載されていない場合、画像の内容を簡潔に表現したテキストを設定する。

補足情報

※画像に文字がある場合でも、例外的にaltを空（alt=""）とすることがあります。

▼altの設定例



- ・画像上に「ラブラドル」と文字記載されている場合 → ``
- ・画像上にテキストがない場合 → ``
- ・画像上に「ラブラドルの親子に注目！母親のモモと子供のレオ」
などとテキストがいくつも記載されている場合 → ``

※キーワードの過剰な設定をすると、スパム判定を受けるリスクがあります

<link rel="canonical">タグの設定

重複ページや同一テーマのコンテンツが存在する場合、検索エンジンに最も優先すべきURLを伝達することが出来ます。
canonicalタグが設定されていない場合、ページの評価が分散したり、コピーコンテンツとされ低評価を受けるリスクがあります。

設定ルール

- 1 <head></head>タグ内に記述し、1 ページに1箇所のみ記載。
- 2 対策ページには必ず設置する。
- 3 ダブルクォーテーション内に「空白スペース」や「2バイト文字」などは含まないように注意。
- 4 ECサイトの類似商品ページや内容が同一だがURLが違うPC・スマホページへの設定を推奨。

補足情報

▼canonicalの設置例

※対策ページがTOPの場合

```
<link rel="canonical" href="http://example.com/" />
```

※設定するURLを間違えた場合、検索エンジンにも誤ったURLが伝達されるため、ご注意下さい。

<link rel="alternate">タグの設定

PCページとスマホページが分かれている場合、検索エンジンにそれぞれのページが別にあることを伝達します。
alternateの設定がないと、PCページとスマホページを別と捉え、重複ページと判断されたりSEO評価の分散にも繋がります。

設定ルール

- 1 PCページとスマホページが、別のURLの場合に使用する。
- 2 PCページの<head>タグ内には、“alternate”を設置する。
- 3 スマホページの<head>タグ内には、“canonical”を設置する。

補足情報

▼alternateの設置例

※ <http://example.com/>のスマートフォンサイト (<http://example.com/s/>) がある場合

・ PC側

```
<link rel="alternate" href="http://example.com/s/" />
```

・ スマホページ側

```
<link rel="canonical" href="http://example.com/" />
```